

4. 総括ワークショップのまとめ

日時：平成16年7月4日（日） 14：00～17：00

会場：人と防災未来センター 5階

14：00 はじめに

- （5分）
- ・主旨説明
 - ・進め方の説明

14：05 ステップ0

- （10分）
- ・アイスブレイク

14：15 ステップ1

- （25分）
- ・各地域の成果の確認（『10年間を振り返って』）
～各地域のまとめを見ながら、ふさわしくない分類、誤字等を修正する～

各部会長も一緒に作業をする

14：40 ステップ1.5

- （50分）
- ・全地域でのまとめ
～全地域の意見として会場全体で議論しながらまとめ、
重要と思われる項目5つを選び投票する～

15：30 ～休憩～

（10分）

15：40 ステップ2

- （25分）
- ・各地域の成果の確認（『将来に向けて』）
～各地域のまとめを見ながら、ふさわしくない分類、誤字等を修正する～

各部会長も一緒に作業をする

16：05 ステップ2.5

- （50分）
- ・全地域でのまとめ
～全地域の意見として会場全体で議論しながらまとめ、
重要と思われる項目5つを選び投票する～

16：55 最後に

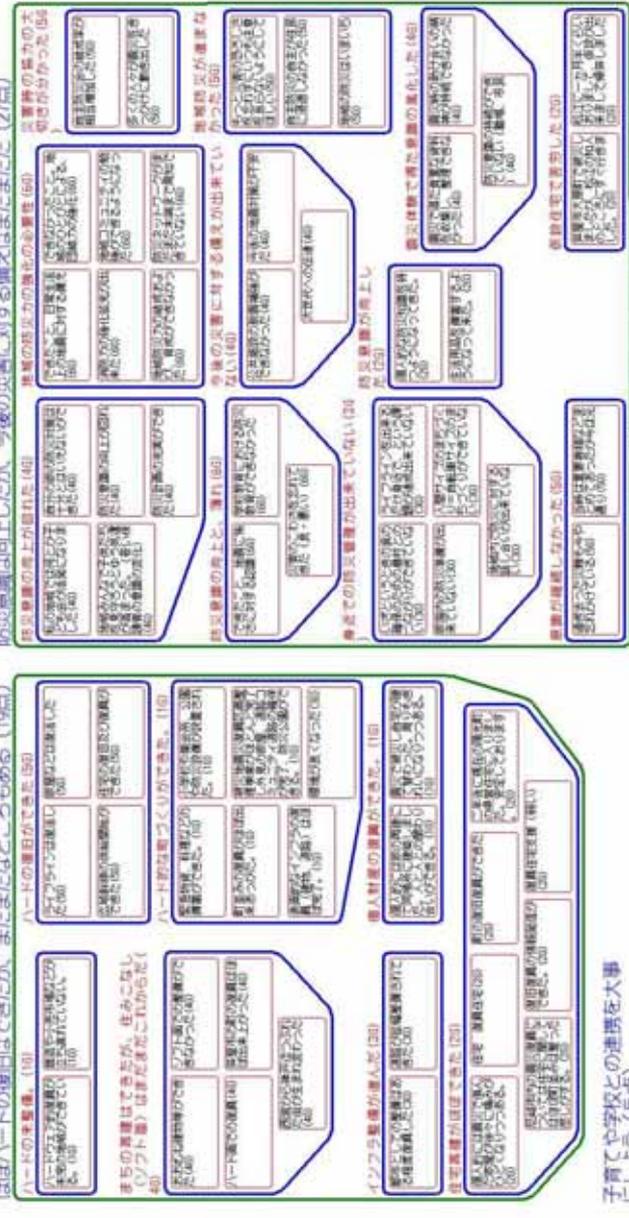
- （5分）
- 部会長の代表によるコメント

17：00 終了

地域ネットワーク、グループ活動やコミュニティのつながりは向上したが新しいままでは不足している (30点)



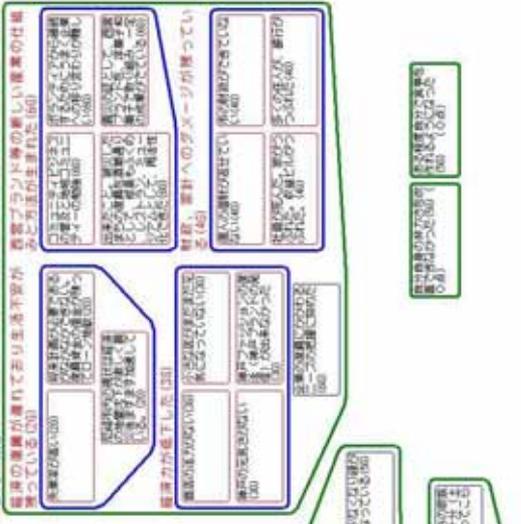
震災後10年を振り返って (2004年6月6日：阪神南) 防災意識は向上したが、今後の災害に対する備えはまだまだ (27点)



子育てや学校との連携を大事にしよう (5点)



新しい雇用の仕組みなどは生まれましたが、経済の復興はこれから (29点)



健康第一・いのちが大切だとわかって (5点)



異業種や芸術文化、まちの復興が進んでいる (6点)



主に高齢者や遺族へのケアができていない (4点)



震災後10年を振り返って(2004年6月12日:神戸)

ボランティア活動の原動力が高まり、活性化し、個人でも参加が出来るようになった。(17点)



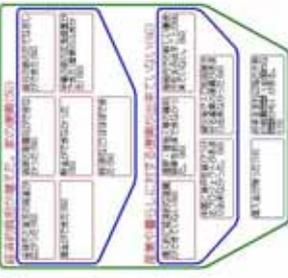
震災のとき、助まじや人の縁の大切さが身にしみ人が、またまじの復興が成っている。(19点)



10年前はなかったが、住民の自治的なリーダーの育成が必要である(15点)



産業や家計の復興ができていない(12点)



防災への意識が高まったが、被災者の傷みや外出復讐を忘れなければならない(31点)



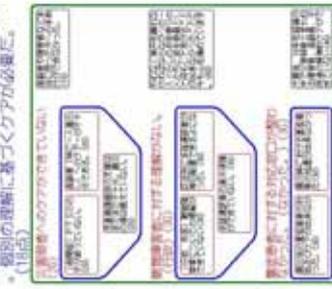
建物やまちの景観の復興に地域がめられる。(18点)



行政の取り組みが遅れている(19点)



民間業者といっしょにまちづくりが必要だ。(18点)



一帯では地域コミュニティや新しいネットワークが広がっているが、新住民のつながりがまだ十分でない(19点)



住宅の復興はまだら模様(9点)



この10年の震災体験を踏まえ、みんなが復興してきている。(17点)



震災の記録と記憶を伝えなければならぬ(18点)



震災後10年を振り返って(2004年6月20日:明石・三木)
震災によって被災所のコミュニケーションが高まり、コミュニティの共助精神ができた。(20点)

家族や地域の防災意識が芽生え、災害の備えが進んでいるが、

● (36点)

<p>災害発生時の準備ができていない(10)</p> <p>防災グッズが準備できていない(10)</p> <p>避難経路を確認できていない(10)</p>	<p>家族や地域の防災意識が芽生え、災害の備えが進んでいるが、(36点)</p>
---	--

災害復旧や町並みの整備が進み、ビルや住宅ができたが、現状課題など、できなかつたこともある。(20点)

<p>町並みの整備が進んでいない(10)</p> <p>ビルや住宅ができたが、現状課題など、できなかつたこともある(10)</p>	<p>町並みの整備が進んでいない(10)</p> <p>ビルや住宅ができたが、現状課題など、できなかつたこともある(10)</p>
---	---

心身療法・警災を忘れない行事も含めて、防災や安全対策に取り組みようになった。(30点)

<p>心身療法・警災を忘れない行事も含めて、防災や安全対策に取り組みようになった。(30点)</p>
--

震災を機に復興支援ボランティア活動がはじまり、ネットワークがはじまった。(32点)

<p>震災を機に復興支援ボランティア活動がはじまり、ネットワークがはじまった。(32点)</p>
--

震災現場の体験への思いが今もある。(10点)

<p>震災現場の体験への思いが今もある。(10点)</p>

失業者が多く、仕事がなくなつた。中小企業の復興もまだ。(5点)

<p>失業者が多く、仕事がなくなつた。中小企業の復興もまだ。(5点)</p>
--

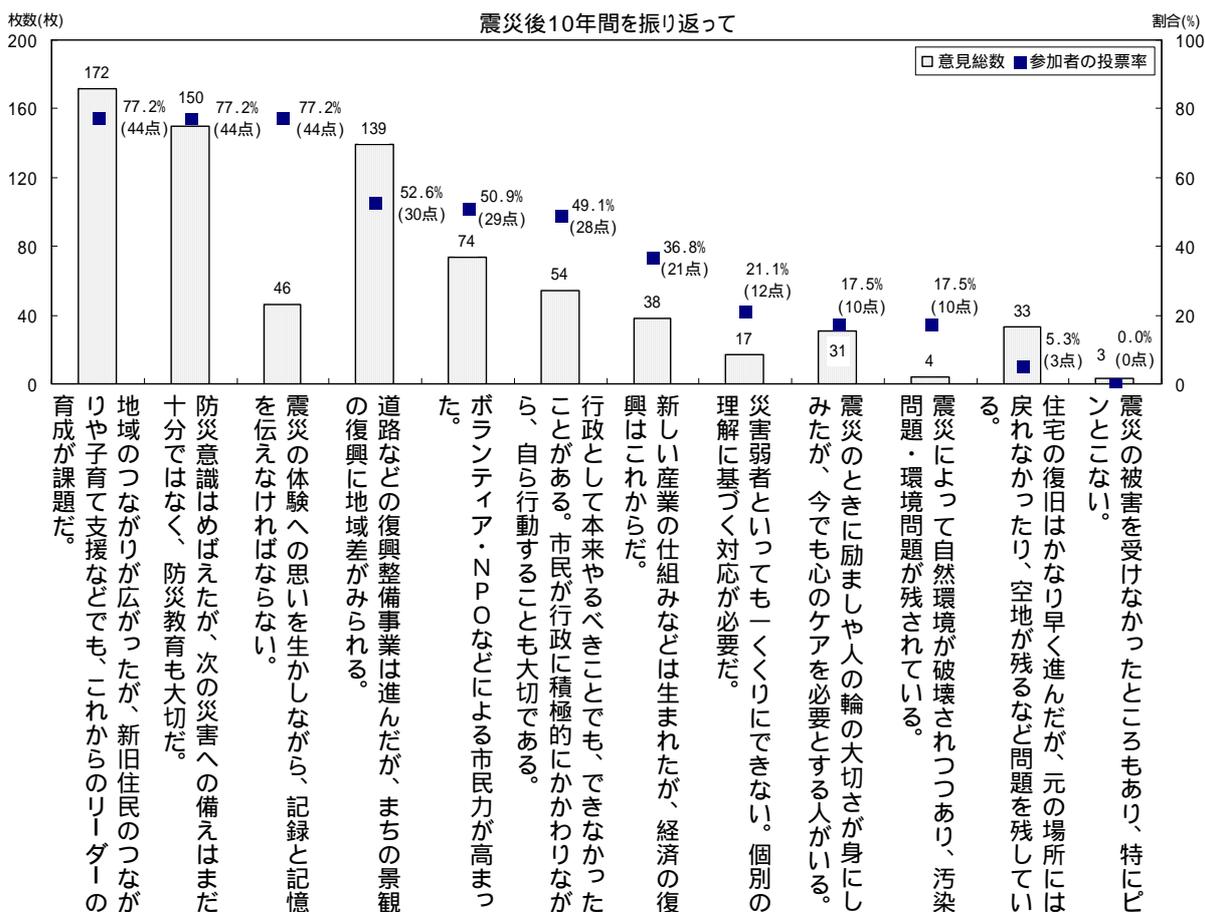
人の心や精神的な復興はまだできていない。(22点)

<p>人の心や精神的な復興はまだできていない。(22点)</p>

若者の生活援助や高齢者福祉への取り組みを考えるべきである。(28点)

<p>若者の生活援助や高齢者福祉への取り組みを考えるべきである。(28点)</p>

・「震災後10年を振り返って」について



総括ワークショップの参加者51名と検証部会長等6名を加えた57名で「震災後10年間を振り返って」をまとめ、順位付けを行った結果は上図のようになった。

その結果、「地域のつながりは広がったが、新旧住民のつながりや子育て支援などでも、これからのリーダーの育成が課題だ。」「防災意識はめばえたが、次の災害への備えは十分でなく、防災教育も大切だ。」「震災の体験への思いを生かしながら、記録と記憶を伝えなければならない。」の3項目がいずれも44点で、参加者の77.2%が投票している。

一方、意見数で見ると、最も多いのは、「地域のつながりは広がったが、...」(172枚) について「防災意識はめばえたが、...」(150枚) 「道路などの復興整備事業は進んだが、まちの景観の復興に地域差がみられる。」(139枚) となっている。

また、投票数で見た上位3項目のうち、「地域のつながりは広がったが、...」と「防災意識はめばえたが、...」では、その中に含まれているほとんどの項目が、各地域で上位5位以内の投票数のもので構成されているが、「震災の体験への思いを生かしながら、...」については、各地域の投票では5位以下だったもので構成されている。

各項目にどの地域の意見が含まれているかで見ると、投票数の上位3項目と「新しい産業の仕組みなどは生まれたが、経済の復興はこれからだ。」および「震災のときに、励ましや人の輪の大切さが身にしみたが、今でも心のケアを必要とする人がいる。」には全地域の意見が含まれ、関心の高さがうかがえる。

・ステップ2：各地域のまとめ

将来に向けて(2004年6月5日:淡路)

ボランティアの受け入れや組織化を今後も充実させていくことが大切だ(25点)

ボランティアの受け入れ(10)	ボランティアの受け入れ(10)
ボランティアの受け入れ(10)	ボランティアの受け入れ(10)

ボランティアの受け入れ(10)

ボランティアの受け入れ(10)

住居団土・地域のつながりを大切にしよう(37点)

住居団土・地域のつながりを大切にしよう(10)	住居団土・地域のつながりを大切にしよう(10)
住居団土・地域のつながりを大切にしよう(10)	住居団土・地域のつながりを大切にしよう(10)

住居団土・地域のつながりを大切にしよう(10)

住居団土・地域のつながりを大切にしよう(10)

日ごろから自分たちでできる備えを軽減しよう(27点)

日ごろから自分たちでできる備えを軽減しよう(10)	日ごろから自分たちでできる備えを軽減しよう(10)
日ごろから自分たちでできる備えを軽減しよう(10)	日ごろから自分たちでできる備えを軽減しよう(10)

日ごろから自分たちでできる備えを軽減しよう(10)

日ごろから自分たちでできる備えを軽減しよう(10)

災害に強いまちは住民と行政の対話が基本になる(27点)

災害に強いまちは住民と行政の対話が基本になる(10)	災害に強いまちは住民と行政の対話が基本になる(10)
災害に強いまちは住民と行政の対話が基本になる(10)	災害に強いまちは住民と行政の対話が基本になる(10)

災害に強いまちは住民と行政の対話が基本になる(10)

災害に強いまちは住民と行政の対話が基本になる(10)

安全・安心で美しく心豊かな住まいやまちをつくるについで(17点)

安全・安心で美しく心豊かな住まいやまちをつくるについで(10)	安全・安心で美しく心豊かな住まいやまちをつくるについで(10)
安全・安心で美しく心豊かな住まいやまちをつくるについで(10)	安全・安心で美しく心豊かな住まいやまちをつくるについで(10)

安全・安心で美しく心豊かな住まいやまちをつくるについで(10)

安全・安心で美しく心豊かな住まいやまちをつくるについで(10)

被災体験・復興体験を継承して(21点)

被災体験・復興体験を継承して(10)	被災体験・復興体験を継承して(10)
被災体験・復興体験を継承して(10)	被災体験・復興体験を継承して(10)

被災体験・復興体験を継承して(10)

被災体験・復興体験を継承して(10)

これから大切にしていきたい人生の価値を教えてください(4点)

これから大切にしていきたい人生の価値を教えてください(4)

これから大切にしていきたい人生の価値を教えてください(4)

被災体験・復興体験を継承して(21点)

被災体験・復興体験を継承して(10)	被災体験・復興体験を継承して(10)
被災体験・復興体験を継承して(10)	被災体験・復興体験を継承して(10)

被災体験・復興体験を継承して(10)

被災体験・復興体験を継承して(10)

被災体験・復興体験を継承して(21点)

被災体験・復興体験を継承して(10)	被災体験・復興体験を継承して(10)
被災体験・復興体験を継承して(10)	被災体験・復興体験を継承して(10)

被災体験・復興体験を継承して(10)

被災体験・復興体験を継承して(10)

被災体験・復興体験を継承して(21点)

被災体験・復興体験を継承して(10)	被災体験・復興体験を継承して(10)
被災体験・復興体験を継承して(10)	被災体験・復興体験を継承して(10)

被災体験・復興体験を継承して(10)

被災体験・復興体験を継承して(10)

被災体験・復興体験を継承して(21点)

被災体験・復興体験を継承して(10)	被災体験・復興体験を継承して(10)
被災体験・復興体験を継承して(10)	被災体験・復興体験を継承して(10)

被災体験・復興体験を継承して(10)

被災体験・復興体験を継承して(10)

被災体験・復興体験を継承して(21点)

被災体験・復興体験を継承して(10)	被災体験・復興体験を継承して(10)
被災体験・復興体験を継承して(10)	被災体験・復興体験を継承して(10)

被災体験・復興体験を継承して(10)

被災体験・復興体験を継承して(10)

被災体験・復興体験を継承して(21点)

被災体験・復興体験を継承して(10)	被災体験・復興体験を継承して(10)
被災体験・復興体験を継承して(10)	被災体験・復興体験を継承して(10)

被災体験・復興体験を継承して(10)

被災体験・復興体験を継承して(10)

被災体験・復興体験を継承して(21点)

被災体験・復興体験を継承して(10)	被災体験・復興体験を継承して(10)
被災体験・復興体験を継承して(10)	被災体験・復興体験を継承して(10)

被災体験・復興体験を継承して(10)

被災体験・復興体験を継承して(10)

・ステップ2：総括でのまとめ

復興10年総括検証ワークショップ(総括) 将来に向けて (2004年7月4日)

これから大切にしていきたい人生の価値を考えていこう (1点)

被災者支援活動の継続 (1点)	被災者支援活動の継続 (1点)
被災者支援活動の継続 (1点)	被災者支援活動の継続 (1点)

ボランティア活動の振興、サポート、連携、組織化が大切だ (46点)

ボランティア活動の振興、サポート、連携、組織化が大切だ (46点)	ボランティア活動の振興、サポート、連携、組織化が大切だ (46点)	ボランティア活動の振興、サポート、連携、組織化が大切だ (46点)	ボランティア活動の振興、サポート、連携、組織化が大切だ (46点)
ボランティア活動の振興、サポート、連携、組織化が大切だ (46点)	ボランティア活動の振興、サポート、連携、組織化が大切だ (46点)	ボランティア活動の振興、サポート、連携、組織化が大切だ (46点)	ボランティア活動の振興、サポート、連携、組織化が大切だ (46点)

安全・安心して美しく、誰でもまちに出て行ける人間中心のまちづくりをしよう (41点)

安全・安心して美しく、誰でもまちに出て行ける人間中心のまちづくりをしよう (41点)	安全・安心して美しく、誰でもまちに出て行ける人間中心のまちづくりをしよう (41点)	安全・安心して美しく、誰でもまちに出て行ける人間中心のまちづくりをしよう (41点)
安全・安心して美しく、誰でもまちに出て行ける人間中心のまちづくりをしよう (41点)	安全・安心して美しく、誰でもまちに出て行ける人間中心のまちづくりをしよう (41点)	安全・安心して美しく、誰でもまちに出て行ける人間中心のまちづくりをしよう (41点)

地域の中の人と人とのつながりを深め、多様な交流を広めていこう (45点)

地域の中の人と人とのつながりを深め、多様な交流を広めていこう (45点)	地域の中の人と人とのつながりを深め、多様な交流を広めていこう (45点)	地域の中の人と人とのつながりを深め、多様な交流を広めていこう (45点)	地域の中の人と人とのつながりを深め、多様な交流を広めていこう (45点)
地域の中の人と人とのつながりを深め、多様な交流を広めていこう (45点)	地域の中の人と人とのつながりを深め、多様な交流を広めていこう (45点)	地域の中の人と人とのつながりを深め、多様な交流を広めていこう (45点)	地域の中の人と人とのつながりを深め、多様な交流を広めていこう (45点)

被害抑止策・被害軽減策・災害対応・復旧復興のすべての局面に行政は力を入れるべきだ (32点)

被害抑止策・被害軽減策・災害対応・復旧復興のすべての局面に行政は力を入れるべきだ (32点)	被害抑止策・被害軽減策・災害対応・復旧復興のすべての局面に行政は力を入れるべきだ (32点)	被害抑止策・被害軽減策・災害対応・復旧復興のすべての局面に行政は力を入れるべきだ (32点)	被害抑止策・被害軽減策・災害対応・復旧復興のすべての局面に行政は力を入れるべきだ (32点)
被害抑止策・被害軽減策・災害対応・復旧復興のすべての局面に行政は力を入れるべきだ (32点)	被害抑止策・被害軽減策・災害対応・復旧復興のすべての局面に行政は力を入れるべきだ (32点)	被害抑止策・被害軽減策・災害対応・復旧復興のすべての局面に行政は力を入れるべきだ (32点)	被害抑止策・被害軽減策・災害対応・復旧復興のすべての局面に行政は力を入れるべきだ (32点)

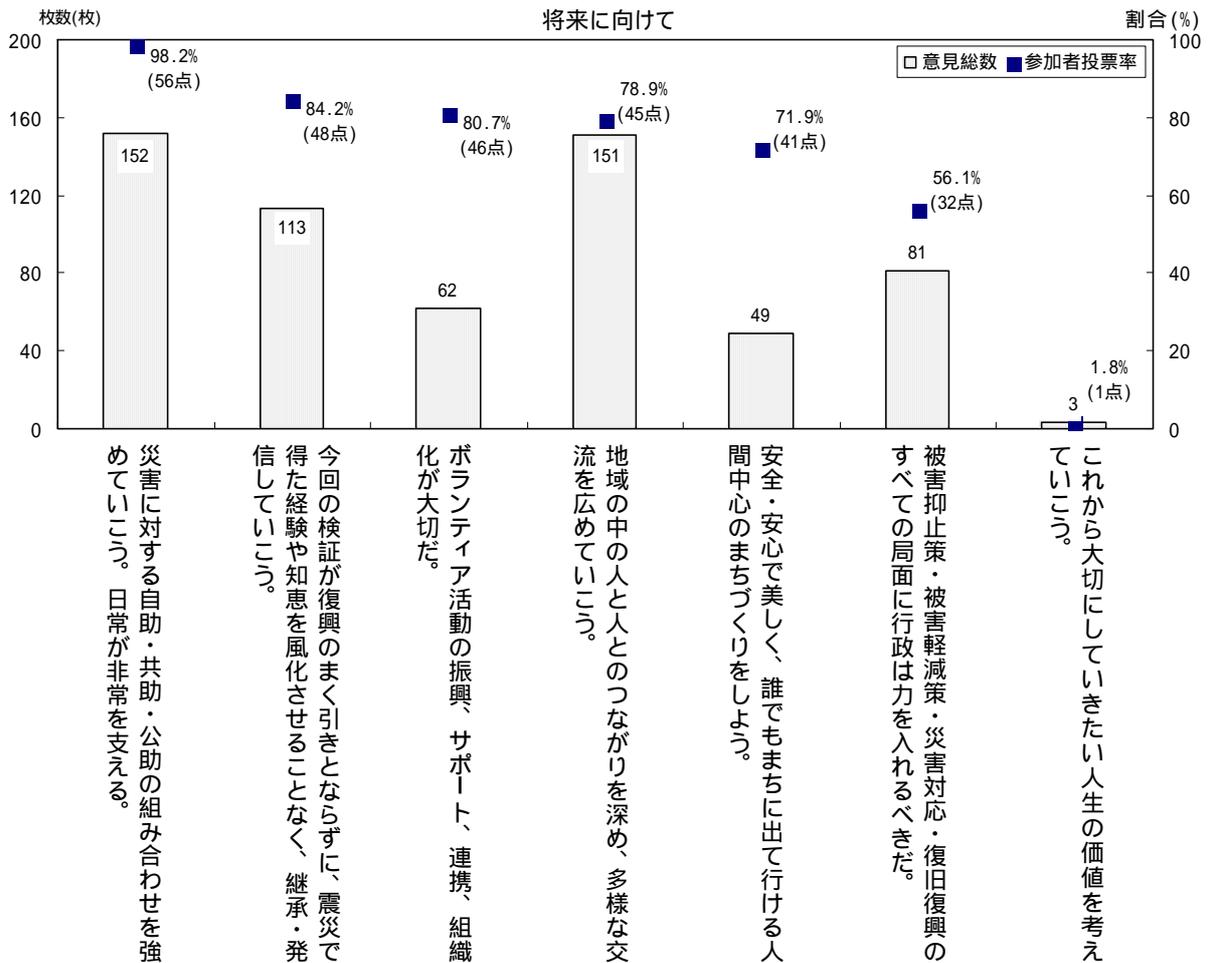
災害に対する自助・共助・公助の組み合わせを強めていこう。日常が非常を支える。(56点)

災害に対する自助・共助・公助の組み合わせを強めていこう。日常が非常を支える。(56点)	災害に対する自助・共助・公助の組み合わせを強めていこう。日常が非常を支える。(56点)	災害に対する自助・共助・公助の組み合わせを強めていこう。日常が非常を支える。(56点)	災害に対する自助・共助・公助の組み合わせを強めていこう。日常が非常を支える。(56点)
災害に対する自助・共助・公助の組み合わせを強めていこう。日常が非常を支える。(56点)	災害に対する自助・共助・公助の組み合わせを強めていこう。日常が非常を支える。(56点)	災害に対する自助・共助・公助の組み合わせを強めていこう。日常が非常を支える。(56点)	災害に対する自助・共助・公助の組み合わせを強めていこう。日常が非常を支える。(56点)

今回の検証が復興のまぐ引きとならずに、震災で得た経験や知恵を風化させることなく、継承・発信していこう (48点)

今回の検証が復興のまぐ引きとならずに、震災で得た経験や知恵を風化させることなく、継承・発信していこう (48点)	今回の検証が復興のまぐ引きとならずに、震災で得た経験や知恵を風化させることなく、継承・発信していこう (48点)	今回の検証が復興のまぐ引きとならずに、震災で得た経験や知恵を風化させることなく、継承・発信していこう (48点)	今回の検証が復興のまぐ引きとならずに、震災で得た経験や知恵を風化させることなく、継承・発信していこう (48点)
今回の検証が復興のまぐ引きとならずに、震災で得た経験や知恵を風化させることなく、継承・発信していこう (48点)	今回の検証が復興のまぐ引きとならずに、震災で得た経験や知恵を風化させることなく、継承・発信していこう (48点)	今回の検証が復興のまぐ引きとならずに、震災で得た経験や知恵を風化させることなく、継承・発信していこう (48点)	今回の検証が復興のまぐ引きとならずに、震災で得た経験や知恵を風化させることなく、継承・発信していこう (48点)

・「将来に向けて」について



総括ワークショップの参加者51名と検証部会長等6名を加えた57名で「将来に向けて」をまとめ、順位付けを行った結果は上図のようになった。

その結果、投票数が最も多かったのは、「災害に対する自助・共助・公助の組み合わせを強めていこう。日常が非常を支える。」(98.2%、56点) ついで「今回の検証が復興のまく引きとならずに、震災で得た経験や知恵を風化させることなく、継承・発信していこう。」(84.2%、48点) 「ボランティア活動の振興、サポート、連携、組織化が大切だ。」(80.7%、46点) となっている。

一方、意見数で見ると、最も多いのは、「災害に対する自助・共助・公助の...」(152枚) 次いで「地域の中の人と人とのつながりを深め、多様な交流を広めていこう。」(151枚) 「今回の検証が復興のまく引きとならず、...」(113枚) と、これらはいずれも100枚以上の意見が包含されている。

また、投票数の上位3項目においては、「10年間を振り返って」とは異なり、各地域の上位5項目との関係は明確にはみられなかった。

各項目にどの地域の意見が含まれているかで見ると、「これから大切にしていきたい人生の価値を考えていこう。」を除いて、どの項目にも各地域の意見がほぼ均等に含まれている。

・総括ワークショップの様子



齋藤副知事のあいさつとともに開始



まずはアイスブレイクから



すぐに熱心な話し合いが始まった



旗を使ってのステップ1のまとめ



続いてステップ2でも積極的な意見が飛び交う



各地域とも時間を忘れるほどの話し合いが続く



再び旗上げによるまとめ



丸シールで重要だと思われる意見に投票